

第1回 若年性認知症のご本人と家族の交流会

終了しました

- 日 時 平成29年6月10日(土) 午後1時30分~3時30分
- 場 所 サンシップとやま センター会議室
- 参加者数 本人とご家族 6組 12人



○ 内 容

ご家族の要望により、初めて開催しました。ご本人グループとご家族グループに分かれてそれぞれに交流しました。ご本人グループは体操をしたり最中を作ったりしながら、診断された時の思いや日頃のこと等を話し合いました。ご家族グループは、本人の経過や今の様子、家族の思い等を話しながら情報交換を行いました。

ご本人グループ

- ・忘れること、周りからよく注意を受けた。
- ・職場等でたくさんカバーしてもらい助かった。
- ・自分でも仕事でミスしていることを自覚していた。辞めるよう言われた時は「そうか」と思った。
- ・自分では大丈夫と思っても周りから抜けていると言われた。診断を受けた時はそうかと思った。
- ・仕事上でもいろいろトラブルを経験し、辞める時には、「これ以上周りに迷惑はかけられない」と思い、自分で決めた。

ご家族グループ

- ・週2回午前の作業所通所が気晴らしになっている
- ・本人だけでなく、両親も介護が必要になると仕事を辞めなければならない。
- ・介護のために仕事をやめた
- ・家族の通勤途中のデイサービスで無償ボランティアとして毎日通所している。そのせいか進行は止まっている。
- ・一緒に海外旅行をしてきた。物忘れ有り、道中はいろいろあったが行ってきた。
- ・精神保健福祉手帳を持っていてもメリットがない
- ・運転できなくなると買い物など生活への支障が大きい。自主返納しても高齢者のようなメリットが無い。
- ・退職して1年。日中の居場所が欲しい。
- ・収入が無くても良いから、誰かと関わる場が欲しい。



終了後のアンケートから

- ・皆さんと話ができて良かった。同じ境遇の方と話ができて大変有意義だった。
- ・声に出す事が必要と思った。良いタイミングで参加できた。
- ・進行するスピードがそれぞれ違うのであまり参考にならない感じ
- ・皆さん同じような経過を経ているのがわかり少し不安がおさまった。
- ・当事者の状況によって抱えている問題や悩みは様々だと思った。
- ・もっと他の人の話も聞いてみたい。

